

# 農薬豆知識【雑草のお話】

## 《畑作雑草について》

畑には様々な雑草が生えますが、今回はその中でも防除が難しいとされる雑草に焦点を当てて紹介します。

### 【 タニソバ 】

タデ科の一年草で、葉や茎が赤みを帯びているのが特徴です。気温が上がってから発生ピークを迎えるので、土壌処理剤の効果が薄れた頃に一気に発生し、除草剤の取りこぼしが多い雑草です。寒い時期に発生すると赤みを強く帯びる傾向



《タニソバ(生育初期)》

で、順調に育ったタニソバは高さが20～40cm程度になり、8～9月に茎先に小さい白っぽい花を付けます。特に十勝では一番発生が多いと言っても良い雑草でどこでも見かけますが、十勝以外でも増加傾向にあります。



《タニソバ(生育中期)》

### 【 アオゲイトウ 】

ヒユ科の一年草で他にはイヌビユ、ホソアオゲイトウがあり、小さい時は区別が付きづらい雑草です。近年かなりの勢いで発生地帯が拡大していますが、アオゲイトウは小さい時から軟毛があり、他のヒユ類に比べて除草剤が効きづらい可能性があります。



《アオゲイトウ》

一方、ホソアオゲイトウは大きくなると茎の上部などまばらに軟毛が現れる程度で、イヌビユは無毛、葉の先端がはつきり凹んでいるのが特徴です。また、近年各地区で問題となってきたのはイガホビユということがわかってきました。これらヒユ類もタニソバと同じく気温が上がってから発生し、夏～秋に花穂を付けます。イヌビ

ユは大きくなっても60cmほどですが、アオゲイトウやホソアオゲイトウは1mを超える場合があります。



### ○タニソバ・ヒユ類 対策法(薬量は10a当たり)

《アオゲイトウ(穂)》



てんさい畑では除草剤の散布時期を両雑草の発生に合わせる事が出来ますので、雑草発生揃(6月中下旬)にベタナール乳剤+ハーブラック顆粒水和剤を散布します。通常はその他の雑草が先に発

生しますので、事前にベタダイヤA乳剤などで抑えてお

きます。土壌水分が適湿の場合、ハーブラックは薬量を増すと土壌処理効果も発揮しますので、ハーブラックの薬量は250g～300gがお勧めです。薬量を増せば残効が伸びてイヌホオズキへ効果も期待出来ますので、雑草の種類と発生量、コストを考慮して薬量を決定して下さい。ベタナール単品ではタニソバやヒユ類に弱いのですが、ハーブラックを散布する際にベタナール 300～400ml +レナテン 100mlを加えると茎葉処理効果が安定します。また、タニソバやヒユ類はカルチを入れると逆に増やしてしまうという知見がありますので、密度が高い畑は除草剤の残効を生かす方が対策になります。(そあらー)



(2011年8月)